

東京の避難所情報をつかみ、支援活動をひろげよう！

練馬区では昨年廃校になったふたつの小学校で受け入れを開始しています。定員は各500名程度。旧光が丘第七小学校は、利用対象者は今回被災された方すべてで、長期（1年間位）を想定しています。

練馬区医師会は避難所の健診を輪番で行うことを決め、大泉生協病院の齋藤医師も含め、体制を組んでいるとのこと。

東京武道館で東大生が炊き出し支援

東大医療ゼミの学生が相撲の高田川部屋と東京災害支援ネット（とすねっと）の共催による「春のちゃんこ大会／炊き出し」に参加しました。雨天のため、屋根のある武道館出入口でちゃんこを作ることになり、食事スペースとして廊下も一部解放されましたが、食事スペースとなった廊下の電気は「節電」を理由につけてもらえないなど、行政側の対応は柔軟さに欠けるものでした。

とすねっとでは避難者の声を可能な限り行政に届けようとアンケートを実施。回答では今後の「暮らしの見通しがたたない」などの不安が寄せられています。今後避難者が都営住宅や各避難所に入りバラバラになってからのサポートが課題と話されていました。（参加した学生の報告）

私たちが事業所自治体の避難所情報をつかみ支援活動を広げることが求められています。



薬剤師支援で待ち時間短縮 薬剤師支援と現地報告

つばさ薬局は全国からの支援を受けて待ち時間が少なくなってきました。病院薬局の業務は通常の状態に戻りつつあり、調剤薬局も水につかった松島店の調剤機器は復旧していませんが、他の店舗では通常の調剤業務を行っています。来局患者も地震の影響による受診は減ってきています。医薬品は全国からの支援もあり、問屋の納入状況も改善してきています。介護用品は取扱業者が津波の被害にあい、引き続き対応できる業者を探しています。ガソリンが確保できたこと、JRが一部動き始めたことで職員の勤務もスムーズにいくようになってきました。都市ガスの復旧が遅れていますが、ライフラインも少しずつ復旧して、生活も落ち着いてきています。

全国からの支援薬剤師は坂病院、つばさ薬局多賀城店、松島店などで調剤業務を行ってもらっています。また避難所訪問に1～3名配置しています。

保険薬局の概算請求認められず、行政に怒り

この間医科で認められた概算請求が保険薬局ではできないといわれ、困っています。震災後の混乱時には通常のレセプト作業を行うのはとても困難な状況の中、地域での医療を守るために頑張った薬局の存在を認識していない行政の態度には怒りを覚えます。薬局のほか歯科、訪問看護ステーションも概算請求を認められていません。

（宮城 つばさ薬局社長 金田）

期限延長して現地支援！ 東京医療問題研究所

4月7日の大きな地震余震では休息に入っていた支援者も全員飛び起きて中庭に一時避難、医師・看護師はすぐにトリアージに入り、他は夜2時過ぎに待機解除になるまで荷物運びや情報入手に奔走しました。すみれ薬局の齋藤さんは、昨日の7日はつばさ薬局で1日調剤、夜間の調剤にも入り終了は20時40分頃。その後支援者同士の報告交流会が開かれ、大変参考になりました。戻って食事がとれたのは22時頃でした。

齋藤さんは引き続き現地で頑張りたいと、支援日程を10日まで延長することになりました。

（東京医療問題研究所 平林）